

# 牧野(淀川上流)探鳥会 2016年3月度

2016.3.6 第1日曜日)9:00~14:00

日本野鳥の会大阪支部

担当 南 茂夫、高井 常之、前田 初雄、甲田 照二、斎藤 健、西脇 淳浩、平 軍二(☎090-6901-1425)

## 1. 先月(1月)の探鳥会から

時々小雪の舞う中での探鳥会であったが、風が弱く日差しの暖かさも感じられた。河川敷内に生育するセンダンの実が熟し、それを食べるヒヨドリ、ムクドリ、ツグミなどの大きな群れがあちこちで見られた。探鳥コースで近日話題になっているオジロビタキとキクイタダキの姿も見ることができた。ジジュウカラ、ウグイス、キジバトのさえずりが聞こえ、春の訪れもまもなくであると実感できた。

キクイタダキ(安川武夫氏 160123)→



## 2. 今月の鳥 オジロビタキ(亜種ニシオジロビタキ)

牧野河川敷の樹林が切られると、林の冬鳥が少なくなると思われるので、先月の探鳥会で観察されたオジロビタキを紹介します。オジロビタキの観察例が多くなり、識別精度が上がり亜種のニシオジロビタキが思いのほか多いことがわかり、今回の牧野の個体も、ニシオジロビタキとされています。

標準和名と学名を並べると、学名をつけたのがヨーロッパの人と思われ、基亜種(最初に学名が付いた亜種)は、ニシオジロビタキであることがわかります。

オジロビタキ *Ficedula parva albicilla*

ニシオジロビタキ *Ficedula parva parva*

カメラマンの餌に惹かれ、1月から定住しているようです。

オジロビタキ(160114 斎藤博氏)→



## 3. 「トイレ」・「自転車の危険」

牧野探鳥会は他の探鳥地に比べ鳥が多いけれども、「トイレが無い・自転車が危ない」の二重苦が、アキレス腱になっています。先々月1月3日は正月にかかわらず自転車部隊が多く、次々に猛スピードで自転車が通過しました。自転車にぶつかると怪我をして痛い目に合うのはバードウォッチャー、保険に入っても痛みまでは補償されません。鳥を見ていると「あそこに鳥」の声で道を左⇄右に移動することになるが、常に前後左右に目を配り、「ひっきりなしに猛スピードで通過する自転車から自分を守る」ようお願いします。



160103 自転車が通過

## 4. 牧野探鳥コースの樹木伐採

牧野はコースに樹林があるため、林の鳥が多く、冬季の観察種が50種となります。探鳥コースは河川敷の緊急用車道ですが、樹木が道路に大きく枝を広げている所があり、緊急時のトラック通行に妨げになることも予想されます。2015年度中に車道の両サイド5m幅で樹木を伐採する予定と聞いていましたが、1年繰り延べとなり、2016年度に伐採されることになりました。

木を伐ると林の鳥が減少することは間違いないので、鳥の面からは木を伐ってほしくないのですが、2013年の洪水時の状況からは、木を伐ること止むなしです。冬の50種観察は今冬限り(今月限り)になると思われますので、今日は林の小鳥をたっぷり楽しんでいただきたいと思います。

## 5. 次回4月3日(日)は 春を歌う鳥&冬鳥残り福

次回4月は予定通り第1日曜日4月3日の開催です。ウグイス・シジュウカラ・カワラヒワなど留鳥のさえずりがひっきりなし、キジの雄叫びも期待できます。北へ帰る日が近づいた冬鳥も楽しみたいと思います。

